

特集

古武雄（こだけお）、 その伝統と文化

Antique Pottery of Takeo

真剣な眼差しで器に向かい象嵌（ぞうがん）を施す、亀翁窯の古賀末廣さん。

古武雄の伝統的な技法の一つ、象嵌は、石に型を彫って作ったスタンプを押しあてることで土に型を付け、そこに白い土を入れることで模様を付けます。美しい装飾の入った器は、陶芸家の地道な作業の積み重ねで生み出されてきました。

約400年前、江戸時代に武雄領内で作られたやきものは「古武雄」と呼ばれ、武雄で独自に育まれた芸術です。

古くから多くの人々を魅了してきた古武雄は、日本各地に留まらず、東南アジアへも輸出され、世界的に愛好されました。

今回は10月に武雄市図書館で開催予定の「古武雄～武雄のやきもの再発見～」に合わせて、市長から人間国宝、中島宏先生にお話を伺った特別対談の内容と、知っているようで知らない、古武雄に秘められた伝統的な技術と歴史、驚きのネタをご紹介します。